

2013 年度 FOS 奨学生

東京理科大学 基礎工学部 材料工学科 平成 25 年卒業

大滝謙太

University of California, Irvine

Chemical Engineering and Material Science

### 留学決意

私が留学することを決意したのは、大学学部 3 年時 2011 年の夏でした。当時通っていた東京理科大学で行われた米国大学院学生会の主催する留学説明会に興味本位で参加し、留学の魅力に惹かれました。留学する事で、日本国内の大学院では得られない多くのことが学べるのではないかと思ったのです。

私の周りの友人たちは皆国内の大学院への進学を希望し、海外へ留学するという意志を持つ人には出会えませんでした。そこで、一から自分で全て調べる必要があり、情報収集のために Full Bright Japan の主催する留学説明会に参加し、留学に必要な手続き、書類、受けなければ行けない試験や、かかる費用などを知りました。説明会では海外留学はさも簡単なことのように聞こえさらに留学への希望と意欲がわいてきました。そして、帰宅し留学のことを調べて行くうちにアメリカへの Ph.D.取得のための留学への意志が固まりました。

### 出願・留学への準備

学部 4 年生になり卒業研究と並行して留学の準備を行いました。同学年の人々は、学内推薦を用いた進学や外部大学院への進学、就職活動などを行っていました。もしも留学できなかった時のことを考えると、国内の大学院へ出願し合格していることが保険となります。推薦資格を持っていた私は、試験を受けずとも進学できたし、他大学院への進学も難しいことではありませんでした。しかしながら、自分の性格上後ろ盾のない排水の陣で臨んだ方が留学準備へ全力が注げると確信しており、後ろ盾となるものは全て蹴り、後戻りできない状況になりました。また、留学を理由に他の人に遅れをとりたくなかったので、研究も人一倍時間と労力をかけました。

こうして、留学一本で進路を決定し留学準備が本格的に始まりました。各種説明会に参加していたので留学する為にはとにもかくにも資金が必要であるということが分かっていました。アメリカの大学院の学費は国内の大学院に比べ学費が非常に高く、少なくとも初めの 2 年間は学校からの支援が無い場合があり奨学金が必要でした。Full Bright Japan の説明会での資料やインターネットを用いた検索で国内の奨学金を探しました。国内で海外留学を支援している企業や機構は多く、ひと夏かけて自分が受験資格に当てはまる奨学金へ出願しました。その中で面接に詠んで頂いたのが船井情報科学振興財団でした。

面接では、志望校のランクアップを薦めて頂き、その日から全力で出願手続きを進めま

した。面接から約1週間後に奨学金の合格の通知をいただき、FOS 候補生となりました。

出願においては締め切りがどの大学院も近く、多くの学校がギリギリでの出願となりました。志望校の選択は、私の選考である材料工学を扱っている大学院全般を対象にリサーチし、興味のある研究を行っている大学院を選択しました。また、選択項目として日本の大学よりも世界的に順位が上であることも重要でした。

出願に必要な各種テストについては、ほとんど一発勝負でした。出願の時期は運が悪い事に研究室も忙しくなり、一年の中で研究、出願、試験と多くのことを同時にこなさなければいけず、時間が足りない時期でした。また、推薦状に関しては、奨学金への推薦状を書いて頂いた教授陣に同様にお願いしました。推薦状に関しては、願書の締め切りよりも遅いのでその点では十分に時間がありました。

12月、1月が過ぎ志望校への出願が終わりました。大学の卒業論文もありましたが、私にとっては、一息つける時期でした。出願後に出願した各研究室の教授方にメールを送りあいさつ、受け入れてくれるかの意思確認を行いました。2月に入り University of California, Irvine からコンタクトがありました。それは、電話で話したいという内容で、面接や試験などの類ではないと言われ恐る恐る深夜電話を待ちました。電話の内容は本当にあいさつ程度で研究への意欲等の確認だったと思われます。

その電話の数日後の2月末に合格通知を受け取りました。しかしながら UCI は第一希望の大学院ではなかった為、入学手続きは進めませんでした。他の大学院からの連絡を待ちましたが多くの大学院は催促しないと連絡をくれず、連絡が帰ってきてももう少し待ってくれという内容でした。入学手続きはすぐに終わると思っていたのと、どこの大学院に行くにしてもサマースクールに参加する予定だったので、4月までに連絡がなければ UCI に入学しようと決めました。結果的には多くの大学から不合格通知が届き、4月になっても UCI 以外の大学院からは合格通知を受け取ることができませんでした。よって4月1日から入学手続きを始めました。サマースクールに参加する為に6月から渡米するということもあり、入学手続きは難航しました。特に、F-1 ビザ申請のために必要な I-20 という書類を大学側に発行してもらうまでに時間が掛り、渡米までに F-1 ビザの発行が間に合わないのではないかという不安も出てきました。6月に入り一週間が経過したくらいに I-20 が届き、無事 F-1 ビザも発行してもらうことができました。F-1 ビザは面接に行ってから3日後位に郵便で届けられ留学の準備が整いました。

留学準備において、大学院とのやり取りは基本的に E メールとなり、時差の関係上お互い返信に時間が掛ってしまいます。その為、なるべく夜更かし、早起きをし、現地時間でまだ事務局等の方々が働いている時間は起きて連絡があればすぐに答えられるようにしていました。

## 留学を目前にして

まだ留学は始まっておらず渡米すらしていませんが、現段階で言えることがいくつかあります。留学して海外で勉強することが自分の成長につながるのももちろんのことながら、

留学をしようという強い意志を持ち、全て自分で各手続き、各プロセスをこなしていくという、留学への準備自体が自分自身を成長させました。留学とは自分の周りとは違う道であり、今まである程度決まっていた、皆と同じ方向に向かっていれば良かった道とは全く違うものです。その入口までたどり着いた時点で、他の人との差異が感じられます。

また、奨学金の各会において、今期の奨学生と交流を深めることができました。東京理科大学出身の私は、自分のいた学部ではトップであったのに、名門校出身の奨学生の方が上であるということを本能的に悟りました。自分よりもレベルの高い人々の中で、自分のことを見直すことができ、この事もさらに成長につながったと言えます。

これから、実際に留学し多くのことを学んで帰ってくると思いますが、5年後どれだけ成長できているかが楽しみです。